

人権問題と向き合う 7人からの メッセージ

仕事として、プライベートとして
様々な立場から人権問題に取り組
む7人に、人権に対する想いと私た
ちができることを聞きました。



「ちょっと立ち止まって
心を振り返る機会にしてほしい」



八千代人権福祉センター センター長
佐々木早百合さん

八千代人権福祉センターでは、人権週間に合わせて、『心耕祭』を開催しています。人権コンサートや講演会の他、人権標語の授賞式も実施。標語は、町内の小学1年生から中学3年生までの全児童・生徒が応募します。感受性が豊かな子どもの頃から年に1回は必ず人権について考える機会があるということです。みなさんにはこれを機に、自分がどれだけ周りの人に思われているかを感じ、それを当たり前と思わず、感謝の気持ちを伝えるきっかけにしてほしいと思います。

「国籍や男女など、社会的に分けられた
グループにとらわれない目線を持つ」



吉田人権会館 館長
原田和雄さん

差別は特別なことではなく日常的で、誰でも心の内に差別をする気持ちを持っています。一人ひとりみんな違って当たり前なのに、人は自分と違うことを物であれ人であれ異質なものと、無意識に、時には意図的に遠ざけようとしています。ベタな言い方かもしれませんが、違いを恐れずに相手の声に耳を傾けることで、相手に抱いていたイメージが変わり、相手の立場を想像することができます。まずは、自分とは無関係だと遠ざけていることを近づけてみることから始めてみてください。

「様々な人権問題がある中で
改めて同和問題を考えてほしい」



安芸高田市人権協会 会長
世界人権宣言高宮実行委員会 委員長
辻駒健二さん

私自身、部落差別を受けてきました。結婚する時、子どもが生まれた時、孫が生まれた時、その都度喜びはありましたが「この子が差別を受けないか」と常に不安がつきまといまいます。部落差別は次世代に残してはなりません。2004年に立ち上げた人権協会は、人権会館と連携して啓発活動に取り組んでいます。2016年に施行された「部落差別解消推進法」、そしてこの「人権週間」を機に、同和問題を正しく理解し、改めて考えてもらえることを願います。

「人権は自分自身の
生き方にかかわる問題」



NPO法人リバティたかた 理事長
小早川民主さん

一つお伝えしたいのは、部落差別、男女、障害者、国籍など、様々な人権問題がありますが、人間は誰も差別する立場にあるということです。差別を「するか」「されるか」ではなく、誰でもする可能性があるということを理解してほしいと思います。「いつ自分が差別をする立場になるかもしれない」という心にとどめておくだけで、その後の生き方が変わってくるのではないのでしょうか？差別は「する側」の問題です。差別をする立場は、差別をなくす立場でもあるのです。

「人権は永遠のテーマ。地域で、
家庭で継続的に取り組むことが大切」



安芸高田市向原町人権対策協議会 会長
先川和幸さん

向原町では、人権をテーマにしたドキュメンタリー映画の上映会や著名人を招いた人権講演会を行っています。私はこうしたイベントに子どもや若い人に参加してほしいと思っています。近年、人権に関わる様々な法律ができていますが、これはあえて法律を作らなければならない「新たな差別が生まれている」ということです。小さな頃からの道徳教育や人権教育が解決のカギの1つになると感じています。これを機に、ご家庭でも思いやりの心について親子で話してみませんか？

「部落問題を理解し
弱い立場の視点に立った地域づくり」



世界人権宣言甲田町実行委員会 委員長
玉本賢壮さん

部落問題と出会ったのは、中学の時、映画「橋のない川」を見たことでした。大学生のとき、部落問題がテーマのゼミで、「足を踏んでいるのはあんたらで、差別をしているのはあんたらで」というゼミ生の言葉に、他人事にしている、差別する側にいる自分に気づくことができました。部落問題を正しく理解し、差別のない社会、弱い立場の視点に立った地域づくりをめざしていきたいと思っています。

「様々な人権イベントに参加して
自分を見つめ直してみしてほしい」



三次人権擁護委員協議会 会長
毛利宣生さん

人権を考えることは、すべての人の命が「かたがえのない存在」と確信することだと思います。それが、自分を大切にすること、他人を大切にすることを育むのではないのでしょうか。人権擁護委員の活動としては、小学生がヒヤシンスの球根を協力しながら育てることで命の大切さや優しさ、思いやりの心を育む「人権の花運動」などに取り組んでいます。人権に関心していることが、知らぬ間に差別をしてしまう原因になることもあります。まずは、各地で開催される人権イベントに参加して、人権の大切さを肌で感じてほしいと思います。